

# *Beauty of Japanese Pearl*



日本真珠輸出組合  
JAPAN PEARL EXPORTERS' ASSOCIATION

<https://japan-pearl.com/>

## 真珠憲章

真珠は、大自然の育んだ生命ある宝石であり、その品位ある美しさ故に古代より人類に愛されてきた。

我々は、自然の力と人の技との調和によりその天来の美を創り出し、更に高めることに専念してきた。

今や真珠は、国際的規模で生産され、世界に真珠を愛する人々の輪を広げつつある。

我々は、真珠が人類の生活に潤いと夢をもたらし、ひいては世界平和の使者として大きな役割を果たすことを念ずるものである。

真珠は、自然と人が生み出した美の神髄への祈りの賜物である。

我々真珠産業人は、真珠の持つ歴史と伝統に支えられた神秘的価値を尊重し、真珠文化の振興と伝承に貢献するため、世界の真珠産業の先駆者としての経験と力量を活用し、誇りをもってその使命を果たすことに全力を傾注することをここに宣言する。

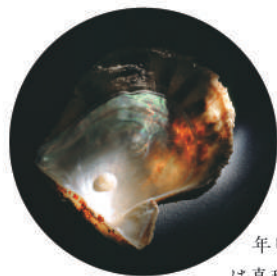
日本真珠振興会  
1993年制定  
2019年改定

## Contents

なぜ日本は世界の真珠産業の………4 中心地なのか
なぜ日本の真珠は美しいのか ……6
真珠の品質 ……8
真珠の種類 ……10
世界の真珠産地 ……11
真珠の持続可能性 ……12
日本真珠輸出組合について ……14

## なぜ日本は世界の真珠産業の中心地なのか

世界中で生産される海水産真珠の60%以上が日本の業者を通じて取引されています。なぜ日本は世界の真珠産業の中心地へと発展していったのでしょうか？それは今から約120年前、天然真珠から養殖真珠への転換というイノベーションが日本を拠点に始まったことによります。



### 天然真珠から 養殖真珠へ

真珠は世界最古の宝石と言われてい  
ます。紀元前4000  
年頃には既に人類  
は真珠と関わりを持っ

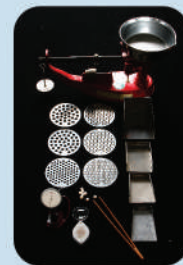
ていたという記録があります。天然真珠がどのようにできるかは謎で11世紀頃までは「天使の涙」や「月夜の露」から生まれると信じられていました。また、その希少性から天然真珠は時の権力者や貴族だけが手にすることが出来る宝石でした。19世紀になると、天然真珠採取はヘルシャ湾を中心に一大産業へと発展します。しかし、限りある資源は貝の乱獲と過酷な労働環境により枯渇の危機を迎えます。一方で真珠ができる仕組みを解明し、人の手で作ろうという研究がヨーロッパを中心に盛んになります。そして、世界中で研究が進められる中、1893年、御木本幸吉が半円真珠の養殖に成功。1907年には西川藤吉、御木本幸吉、見瀬辰平がそれぞれ別の方法で真円真珠養殖を発明しました。この時から世界の真珠産業の中心は日本に移り、今日に至ります。日本で養殖されるあこや真珠に限らず、オーストラリアやインドネシアなどで養殖される白蝶真珠、フランス領ポリネシアなどで養殖される黒蝶真珠も日本で発明された同じ技術が使われています。



## 養殖真珠はまさに「サステナブルジュエリー」

6000年に及ぶ真珠の歴史のなかで、養殖真珠の歴史はわずか130年です。しかし養殖真珠の出現はそれまでの真珠産業の成り立ちを大きく変えました。数年サイクルでの計画的な生産は乱獲、環境破壊といった問題を大きく軽減し、静かな沿岸海域での筏を用いた養殖は、従事する人達の労働環境を劇的に改善しました。また、かつては一部の権力や富の象徴であった真珠ですが、養殖発明以降は一般の人々も楽しむことのできる真珠へと変貌しました。

このように養殖真珠は産業の成り立ち自体が自然と人が融合した持続可能な環境の下に成り立っています。これが他の宝石類との根本的な違いで、まさに「サステナブルジュエリー」と呼ばれる所以です。



笊（もんめ）

真珠の目方を表す国際単位。真珠の養殖が日本から始まったため、日本古来の単位が世界で使われている。1笊=3.75グラム。



花珠

キズが少なく、形、巻き、テリ、色の素晴らしい高品質な浜揚げ状態（製品化する前）の真珠を指す。明確な統一基準はない。

## なぜ日本の真珠は美しいのか

世界中から愛される日本のあこや真珠、なぜこれまでに賞賛されるのでしょうか？



## Planet

### 日本の四季と豊かな自然が育む

あこや真珠をよく見てみると、白一色ではなく、シャボン玉のような独特の瑞々しく温かみのある干渉色に惹きつけられます。人々を魅了するこの美しさは、日本産あこや貝の持つ特性、日本独特の気候と豊かな自然の融合によって生まれます。

日本のあこや貝は他の母貝にはない独特の虹色の真珠層を分泌し、きめ細やかな結晶を作り上げます。また、四季のはっきりとした日本の気候は年間の海水温に大きな寒暖差をもたらします。これがあこや貝の真珠層の分泌に好影響を与え、暖かい季節には巻きの厚さを、寒い季節にはきめ細やかな面立ちを作り上げます。また山や森に囲まれた穏やかで豊かなリアス式海岸は真珠養殖に最適な環境をもたらします。



### 真珠を育てる人々 手間を惜しまないほど 理想的な真珠が誕生する

真珠養殖が日本で誕生して 130 年超。真珠の芯となる核を入れる作業は春から始まります。熟練の職人がひとつひとつ手作業で行います。2～3年、手塩にかけて育てた母貝に、通常一つか二つの核を慎重に挿入していきます。この技術が真珠の出来の良し悪しに大きく影響します。挿核後、数週間静かな内海で養生させ、沖へ出します。それから浜揚げされるまで1～2年間、水温や潮流の変化、餌となるプランクトンの状態などを観察しながら慎重に管理します。月に数回、貝に付着した藻やフジツボを除去する貝掃除をします。水温の急変時や台風、赤潮の発生時には筏ごと移動させることもあります。少しでも管理を怠ると貝の体力がみるみる奪われてしまいます。水温が下がると良質の結晶が形成されるため、冬まで待つ極寒の海で浜揚げ作業が行われます。稚貝から母貝を育て、挿核し、浜揚げするまで3～4年、養殖業者はひと時も気を抜くことなく、貝と向き合い、美しい真珠作りに励んでいます。

## People



### 真珠の美しさを引き出す人々 想いを受け継ぐクラフトマンシップ

養殖業者によって丁寧に育てられた真珠は、神戸や三重を中心とした加工業者に引き取られます。そこでも長年の経験を積み重ねた職人たちの確かな目利きと技術によって選別、加工処理されます。彼らは生産者の想いを受け継ぎ、一粒一粒手作業で浜揚げ真珠の個性を見極め、その美しさを引き出し、宝石としての価値を磨き上げていきます。(これはあこや真珠に限らず、海外から輸入される全ての真珠においても同様です)。この加工処理技術も養殖技術同様に長年に渡り日本が世界をリードしており、日本が世界の認める真珠の中心地である所以のひとつです。

## Pearl

### 自然と人によって生み出される

日本の真珠の美しさは、豊かな自然と生産から加工に至る技術の高さ、真珠への細やかな配慮、さらには真珠作りにかかる人々の情熱にあるのです。

#### あこや真珠とは

日本の養殖真珠の原点と言われるあこや真珠。サイズは10mm以下で一般的には6～8mmが主流。他の真珠に比べて真円に近いものが多く、色やテリが特に美しいのが特徴。



## 真珠の品質

真珠の品質評価は複雑でダイヤモンドのような統一された基準や鑑定書はありません。その為真珠の品質はわかりにくいと言われますがそれは「奥が深い」ということです。基本的に6つの品質要素によって評価されますが、真珠は自然の産物でひとつとして同じものはありません。

### 1 巻き Nacre thickness

「巻き」とは真珠層の厚さのことです。真珠層は炭酸カルシウム結晶とタンパク質が積み重なって構成され、深みのある光沢や色と密接な関係があります。X線や超音波を用いて数値化することもあります。巻きの評価は厚さだけではなく真珠層の質（キメ細かさ、透明感、不純物）を考慮する必要があります。あこや真珠は0.3～0.8ミクロンという非常に薄く繊細な結晶が1000枚以上積み重なっているのが特徴で、独特な奥深い干涉色を生み出しています。

### 3 キズ Blemish

「キズ」は真珠表面のシワや凹凸などの総称で、様々な形状があり、その種類、大きさ、多さ、位置等が品質評価の要因になります。通常キズの少ないものの市場評価が高いとされますが、真珠は自然の産物であるためある程度のキズはその真珠の個性とみなされ、キズが多少あっても巻きやテリの優れたもの、色の嗜好等によって高評価を得られる真珠もあります。しかし、限度を超えたキズは耐久性に悪影響を及ぼします。特に養殖過程でできる「天然キズ」とは違い、加工処理の過程で発生する「加工キズ」は経年劣化の原因になるので注意が必要です。

### 2 テリ (光沢) Luster

「テリ」とは真珠の光沢、輝きのこと。表面からの反射だけではなく、真珠層内部からの反射が干渉を伴い深みのあるテリを発生させます。その為、「テリ」は「巻き」の厚さ、均一性、光透過性の影響を受けます。巻きが厚ければテリも良い、と思われがちですが、巻きが厚くても真珠層の質が悪いとテリの鈍い真珠になります。逆に巻きが薄くても一見光沢がある真珠もありますが、それらは表面の反射が強いだけで、奥深さに欠けるテリと言えます。あこや真珠は水温が下がると繊細で美しい真珠層が形成されテリが格段に上がるため冬季に浜揚げされます。

### 4 色 Color

「色」は個人の好みに依るもので優劣はつけられません。真珠の色には母貝が分泌する色素による実体色と真珠層による干涉色（上質な真珠に見られる中心と外周の色の微妙な違い、虹色がかかった立体的な色の輝き）がありますが、この二つは複雑に影響しあっています。真珠の色は加工処理によっても変えられます。真珠本来の色を引き出す前処理、ホワイトニング、調色に情報開示義務はありませんが、染色、放射線照射等は本来の色を改変するための開示義務があります。調色と無調色は他の5つの要素が同等なら品質評価や希少性に差はありません。

### 5 形 Shape

核の無い天然真珠においては真円の真珠は大変稀で貴重でした。その名残で真円の核を挿入する養殖真珠においても真円に近い真珠の方に価値があるとされてきました。しかし、真珠層の巻きが厚くなればなるほど歪んでゆく傾向にあり、変形の真珠は巻きの厚さの証明とも言えます。近年はドロップやバロック等個性的な形の真珠の人気も高まり、形は色同様に個人の嗜好に依るところが大きく、単純に優劣をつけることのできない要素になります。

### 6 サイズ Size

真珠のサイズはその直径をミリ (mm) 単位で表したものです。あこや真珠のサイズは主に3～9mmで、10mmを超えるのが当たり前の白蝶真珠や黒蝶真珠に比べると小ぶりです。通常0.5mm単位に選別され、表示されます。かつては品質が同等であればサイズが大きな真珠の方に価値があるとされましたが、現在は養殖技術の変化、デザインやアイテムの多様化などによって、サイズによる価値の優劣はほとんどありません。その時々母貝の特性や養殖環境の変化によって希少性が高いサイズの値段が上がる傾向はありますが、サイズも色、形同様に、個人の嗜好を優先すべき要素と言えます。



1～3は客観的に評価できますが、4～6は個々の好みにより価値が別れます。

## 真珠の種類

真珠の種別は、まず大きく  
**天然と養殖**の違いがあります。

### 天然真珠

天然真珠は、特定の母貝の体内で、通常は微細な刺激物の周囲に、人間の手を介さずに形成されます。

### 養殖真珠

養殖真珠は、人間の介入と管理を必要とします。現在、養殖の過程で使用される母貝のほとんどはその目的のために育成されていますが、野生の母貝を収集し使用するケースもあります。

次に、**海水真珠**と**淡水真珠**  
の違いがあります。

### 海水真珠

海に生息する貝（あこや貝、白蝶貝、黒蝶貝等）から産出される真珠で、1つの貝から作られる真珠の数は基本的に1個です。数個程度作られる場合もありますが、小さいサイズに限られます。海水真珠は管理が難しく、多くの手間とコストがかかると同時に、職人の高い技術力が必要です。

### 淡水真珠

湖や沼、河川などの淡水に生息する貝（イケチョウ貝、ヒレイケチョウ貝等）から産出される真珠で、母貝のサイズが大きく、1つの貝で10~20個程度養殖することが可能です。海よりも手間とコストをかけずに効率よく生産することが可能です。



## 世界の真珠産地

地球上には10万種以上の貝が生息していますが、その中で宝石的価値を有する真珠を生み出す貝はほんの数種類です。あこや貝を使用し、日本で始まった真珠養殖ですが、その技術をベースに世界中の真珠母貝産地に広がりました。それぞれの母貝の特性によってサイズ、色、光沢などに大きな違いがあります。

### あこや真珠



殻高：7~10cm  
真珠の大きさ：3~9mm  
主な生産地：日本

### 黒蝶真珠



殻高：15cm  
真珠の大きさ：8~15mm  
主な生産地：フランス領ポリネシア

### 白蝶真珠



殻高：25cm  
真珠の大きさ：9~18mm  
主な生産地：インドネシア  
オーストラリア  
フィリピン  
ミャンマー

### 淡水真珠



殻高：約10cm（イケチョウガイ）  
真珠の大きさ：3~15mm  
主な生産地：中国



## 真珠の持続可能性

### 豊かな自然と人間と共存する里海経済

真珠養殖が発明されて130年。日本では人々が生活を営む場所で養殖が行われています。三重県、長崎県、愛媛県は日本における真珠養殖の三大産地であり、入り組んだ海岸線で静かな内海が特徴です。養殖が行われている地域の山地や陸地には果樹林や田畑があり、人々が手入れをしています。肥沃な土壌は川を経て、栄養豊富なミネラルが海に注がれていきます。その海には真珠養殖の筏が設けられており、貝はそこに集まるプランクトンを餌に成長します。このように真珠の養殖場では、里海が形成されているのです。

### 機械化できない、職人の知恵と技術の伝承

テクノロジーが発達した現代においても、真珠が生まれる過程のそのほとんどが職人の手によるものです。日本の真珠産業は中小の企業が多く、各社の技術は秘伝の技として限られた職人に代々受け継がれていきます。

### さまざまな取り組み

日本真珠輸出組合では、真珠養殖業者や業界各団体、他業種とも連携して、サステナビリティへの取り組みを推進しています。真珠は豊かな自然の恵みがあってこそ、生まれる宝石です。海や森を守り、育てた真珠貝は余すことなく使い切り、これまで廃棄・焼却せざるを得なかった養殖の漁具についてはアップサイクルに取り組んでいます。



#### 余すことなく使い切る

真珠貝は、余すことなく利用されることで知られています。貝殻はボタンに、貝柱は地場の名産食で季節の味わいとして有名です。最近では貝肉をコンポストにして、陸地に戻す活動が行われています。陸から海、海からまた陸へと、自然の恵みを循環させています。

写真提供：三重県真珠振興協議会



#### 植樹活動

海と山の循環を促進するため、真珠養殖場がある付近の山に植樹をするNPO法人ひと粒の真珠の活動を支援しています。



#### アップサイクル

近年、真珠養殖の現場で課題となっている養殖ごみ。養殖の現場では、これまで定期的に浜掃除を行っていましたが、真珠産業の持続可能性をより向上させるため、回収した廃漁網等のアップサイクルに取り組んでいます。



## 日本真珠輸出組合 (JPEA)

設立年月日	1954年7月13日
設立目的	日本真珠輸出組合は、輸出入取引法に基づき、通商産業大臣（現経済産業大臣）の認可を得て設立された輸出業者の団体であり、不公正な輸出取引を防止し、輸出取引の秩序を確立し、組合員の共通の利益を増進するための事業を行うことにより、真珠産業の健全な発展を図ることを目的としています。
組合員数	135社（2023年4月現在）
主な活動	ジャパンパールフェア（年2回） 各種入礼会（交換会） 国際見本市・展示会（ジャパンパールパビリオン） 輸出真珠の品質検定（ブルータグ） 保税蔵置場 海外市場調査、海外広報 貿易、関税等に関わる情報提供 サステナビリティに関する活動
所在地	兵庫県神戸市中央区伊藤町121 神戸伊藤町ビルディング7F
連絡先	078-331-4031 info@japan-pearl.com



JPEA



組合員名簿